

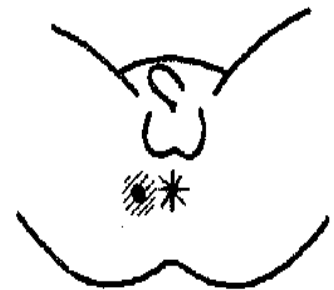
肛門周囲膿瘍



<肛門周囲膿瘍とは?>

肛門のそばにできる赤いおできで、さわると痛がります。黄色い膿(うみ)が出てくることもあります。赤ちゃんの肛門の内側にはポケットのような襞(ひだ)があります。このポケットの中には細菌がたまりやすく、繁殖すると炎症を起こして肛門周囲膿瘍になってしまいます。

肛門を下から見て腹部方向を12時とすると、3時と9時方向、つまり側方発生が多いです。男児に圧倒的に多く、難治性で何度も繰り返します。1歳4カ月頃には自然治癒する傾向があります。



<治療>

- (1)抗生物質:抗生物質を服用して、体の中から細菌を殺します。
 - (2)切開法:膿瘍を切開して膿を出します。
 - (3)漢方薬:「排膿散及湯」「十全大補湯」が有効です。
 - (4)圧迫法(=揉み出し法):膿瘍を揉んで膿を出します。自宅で実施します。
- *最近では、(1)(2)はあまり行われず、主に(3)が行われ、ときに(4)が併用されます。

<漢方薬>

- 1.排膿散及湯:膿の排出を促す効果とともに、鎮痛作用があります。発症直後から1-2週間程度服用します。
 - 2.十全大補湯:消化管における免疫増強効果があり、肛門周囲膿瘍の再発を防いでくれます。排膿が治まってからも2カ月間程度服用を継続する必要があります。
- *発症直後には排膿散及湯単独または排膿散及湯と十全大補湯の併用、その後は十全大補湯を継続使用します。1歳過ぎには自然治癒することが多いので、継続して服用することが大切です。

<圧迫法(=揉み出し法)>

圧迫法では、膿瘍表面を穿刺するか2-3mm程度の小切開を行います。膿瘍と思われるしこり全体をつぶすような感覚で揉みます。お尻全体をつねるようにつまむと、膿が切開孔あるいは肛門から出てきます。穿刺あるいは小切開は医療機関で行いますが、圧迫(=揉み出し)は自宅で家族の方に1日2-3回実施してもらいます。赤ちゃんは痛がって泣きますが、継続が必要です。患部の清潔は必要なので排便後はぬるま湯でよく洗浄しますが、特別の消毒やガーゼなどは不要です。再発したら、また同じように圧迫(=揉み出し)を行います。これを繰り返すうちに、自然治癒が期待できる1歳過ぎを迎えます。1歳を過ぎても再発を繰り返す場合には、手術を考慮します。



<家庭で気をつけること>

よごれやすい所なので、なかなか治りにくい病気です。治ってもまた再発することがあります。短くて2-3週間、長いと数カ月かかることがあります。1歳4カ月くらいになると自然に治癒します。おしりを清潔にし、辛抱強く治療を続けることが大切です。